

平成 29 年度内閣府委託事業

男女の健康意識に関する調査報告書
(概要版)

平成 30 年 3 月

楽天リサーチ株式会社

目 次

第1章 調査の目的と概要	1
1 調査目的・趣旨	1
2 調査の実施概要	1
(1) 国民生活基礎調査からみる健康に関する実態(特別集計)	1
(2) 男女の健康意識に関する調査	2
第2章 国民生活基礎調査からみる健康に関する実態(特別集計)	3
1 通院しながら働いている人の健康に関する実態	3
(1) 通院しながら働いている人の割合の推移	3
2 就業状況と健康に関する実態	4
(1) 健診の受診状況	4
(2) がん検診の受診状況	5
第3章 男女の健康意識に関する調査の結果	9
1 日ごろの不調に関する状況	9
(1) 月経に関わる不調の状況	9
(1) 肩こり、ほてり、発汗等の更年期障害に関する症状の有無	10
2 仕事と治療の両立に関する状況	11
(1) 通院ありの者の傷病	11
(2) 通院頻度の最も多い傷病罹患後の就業状況	12
(3) 通院頻度の最も多い傷病の治療に際する離職検討の有無	13
(4) 治療しながら働く際に利用している制度	14
(5) 治療と仕事の両立における課題	15

第1章 調査の目的と概要

1 調査目的・趣旨

自らが希望する形で働き、家庭生活を送るうえで、健康はその基盤となるものである。本調査は、男女が、社会生活の中で直面する健康上の課題と支援策を、性差を踏まえた形で把握し、男女の健康を巡る現下の課題等が、治療や介護と仕事の両立という働き方にどのように影響を与えているか分析することを目的とする。

具体的には、治療や介護と仕事の両立を中心に健康と仕事にまつわる関係について、特に就業状況（正規の職員、非正規の職員など）を軸に国民生活基礎調査の特別集計より実態の把握を行う。また、インターネット・モニター調査により、通院と仕事の両立の現状や課題、男女の日ごろの健康状態や意識をとらえる。

2 調査の実施概要

本事業は、（１）公的統計の個票を用いた集計・分析、（２）インターネット・モニターによる個人の意識調査の２つの調査を実施した。

（１） 国民生活基礎調査からみる健康に関する実態（特別集計）

① 実施方法

厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成 16（2004）年、平成 19（2007）年、平成 22（2010）年、平成 25（2013）年、平成 28（2016）年（大規模調査年））の世帯票、健康票、介護票の結果を用いて、集計・分析を行った。集計に用いた調査票の情報項目は下記の通りである。各年の通院の有無、健康意識、健診の受診状況、介護しながら働く者の状況等について、時系列での変化が把握できるよう集計・分析を行った。

表1.1.国民生活基礎調査の集計・分析に用いた調査票情報項目

世帯票	健康票	介護票
<ul style="list-style-type: none">・ 性別・ 年齢・ 仕事の有無・ 勤めか自営かの別・ 勤め先での呼称・ 手助け要否・ 要介護認定・ 主な介護者の同別居・ 主な介護者の続柄・ 主な介護者の性・ 主な介護者の年齢	<ul style="list-style-type: none">・ 通院の有無・ 最も気になる傷病・ 健康意識・ 飲酒状況・ 喫煙状況・ 健診受診の有無・ 健診を受けなかった理由・ がん検診受診状況	<ul style="list-style-type: none">・ 要介護度の状況（現在）・ 介護が必要となった主な原因・ 主な介護者の同別居・ 主な介護者の続柄・ 主な介護者の性・ 主な介護者の年齢・ 主な介護者の介護時間

本報告書において示す集計結果は、各設問の回答数に「拡大乗数（ウエイト）」を乗じ全国規模の集計としたものである。ただし、平成 28 年は熊本地震の影響により、熊本県は調査の実施を見合わせたため、熊本県が含まれない数値となっている。

(2) 男女の健康意識に関する調査

① 調査対象及び調査方法

(i) スクリーニング調査

まずは、インターネット・モニターに対して、スクリーニング調査（Web アンケート）を実施し、全国 20 歳以上の男女で有職の 16,408¹件を対象に、性別、年代、通院の有無、傷病名、通院頻度について尋ねる調査を実施し、本調査の対象を下記のように選定した。

表 1.2.調査対象の性別・年代別・通院の有無

		20代	30代	40代	50代	60歳以上	合計
通院あり	男性	187 15.0%	313 25.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	1,250 100.0%
	女性	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	1,250 100.0%
通院なし	男性	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	1,250 100.0%
	女性	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	250 20.0%	1,250 100.0%

(ii) 本調査

スクリーニング調査で抽出した有職²の 5,000 件を対象に、傷病の有無や健診の受診状況、制度の活用状況、がん検診の受診状況、家族等の介護の有無などについて尋ねる本調査を実施した。なお、有職で通院ありの者とは、5大疾病（悪性新生物（がん）、脳卒中（脳出血、脳梗塞）、狭心症・心筋梗塞、糖尿病、うつ病やその他こころの病気）、女性が罹患しやすい疾病（関節リウマチ、骨粗しょう症、バセドウ病・橋本病、更年期障害、不妊症、性感染症、子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣嚢腫、月経困難症、妊娠・産褥期の傷病、産後うつ）で通院する者である。有職で通院なしの者はいかなる傷病でも通院していない。

① 調査内容

属性、傷病の有無、業務への支障の有無、通院期間、制度の活用状況、仕事と治療を両立させる場合の課題、健診の受診状況、がん検診の受診状況、家族等の介護の有無 等

② 調査期間

平成 29 年 12 月 15 日（金）～12 月 24 日（日）

¹スクリーニング調査の何らかの傷病で通院している者（有職女性で通院している者 2,088 名）を対象とした結果によると、子宮内膜症で通院している者は、20 代では 12.5%、30 代では 16.3%、40 代では 12.9%、50 代は 5.6%である。また、何らかの傷病で通院している女性のうち子宮筋腫で通院している者は、20 代は 4.8%、30 代では 15.2%、40 代で 27.9%、50 代は 16.3%である。

²通院あり、通院なし共に男性の約 6 割、女性の約 5 割が従業員規模 100 人以上の企業の勤務。

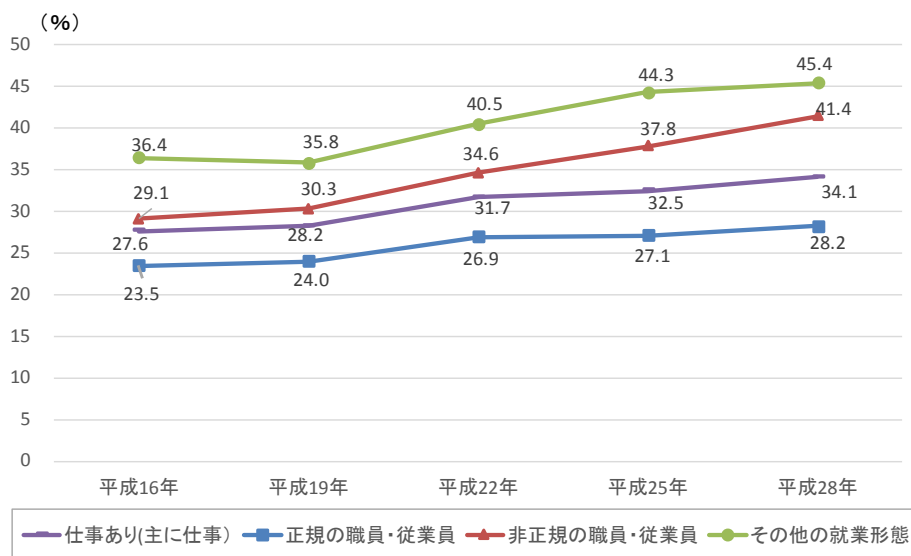
第2章 国民生活基礎調査からみる健康に関する実態（特別集計）

1 通院しながら働いている人の健康に関する実態

(1) 通院しながら働いている人の割合の推移

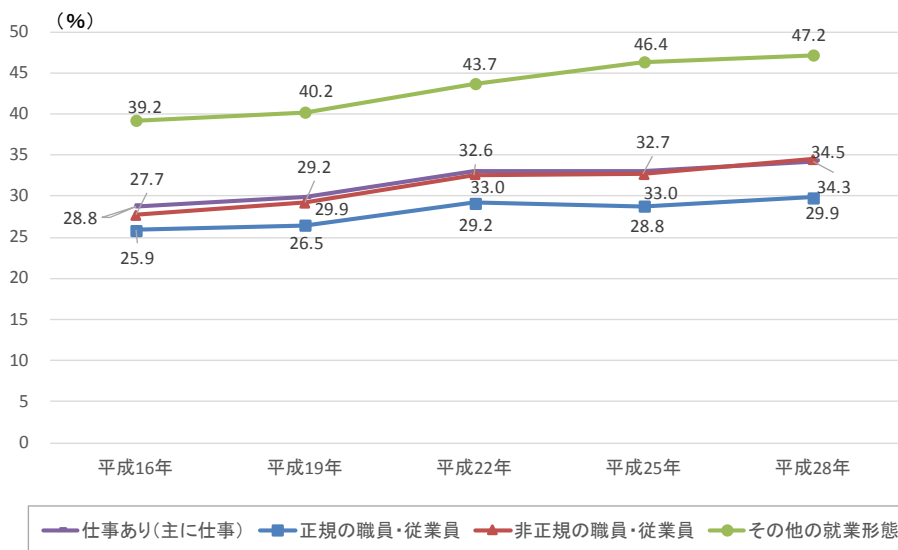
- 男女ともに、正規、非正規の別等にかかわらず、通院している割合が年々増加している。
- 仕事あり（主に仕事）でみても、男女ともに「通院している」の割合が年々増加している。

図2.1. 就業状況別に見た通院者の割合の推移（男性）



(備考) 年齢不詳は含まない。

図2.2. 就業状況別に見た通院者の割合の推移（女性）



(備考) 年齢不詳は含まない。

2 就業状況と健康に関する実態

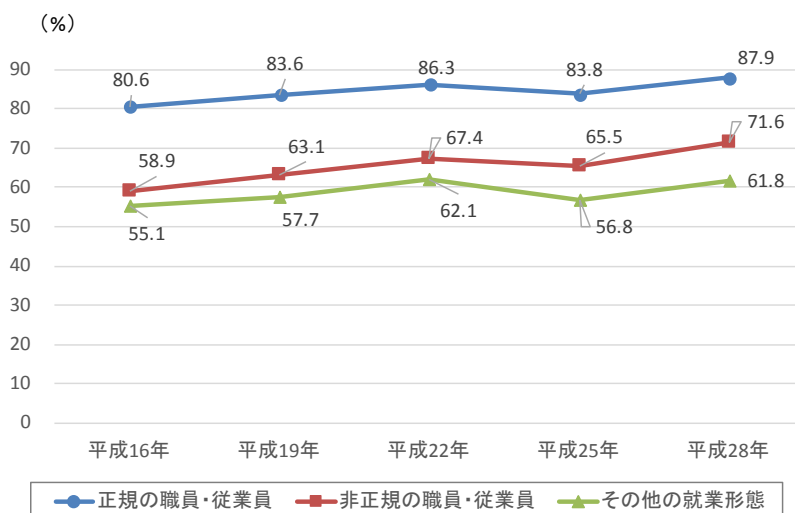
(1) 健診の受診状況

1) 就業状況別に見た健診受診率の推移

【健診受診：過去1年間の健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)受診の有無】

- 男性の正規の職員の健診受診率は、平成28年で87.9%と平成16年から7.3ポイント増加し、非正規の職員は、同71.6%と同12.7ポイント増加した。
- 女性の正規の職員の健診受診率は、平成28年で85.4%と平成16年から8.1ポイント増加し、非正規の職員は、同68.9%と同10.1ポイント増加した。

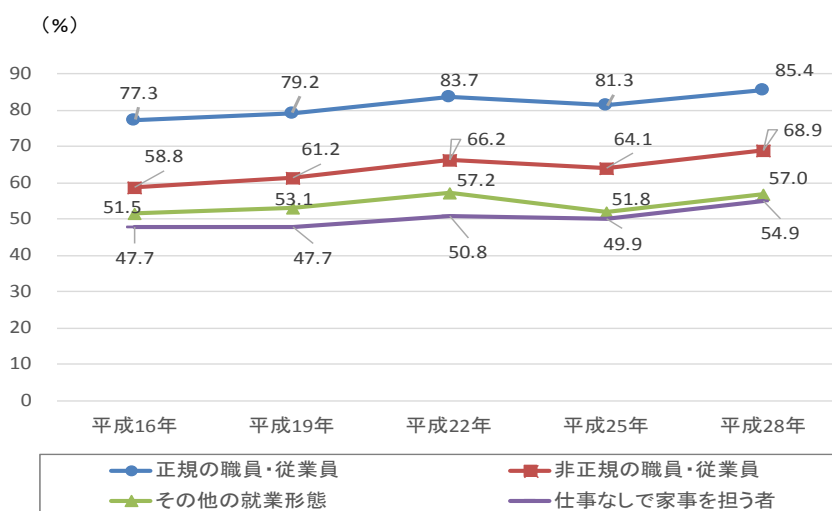
図2.3. 就業状況別に見た健診受診率の推移（男性）



(備考) 1.20歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図2.4. 就業状況別に見た健診受診率の推移（女性）



(備考) 1.20歳以上

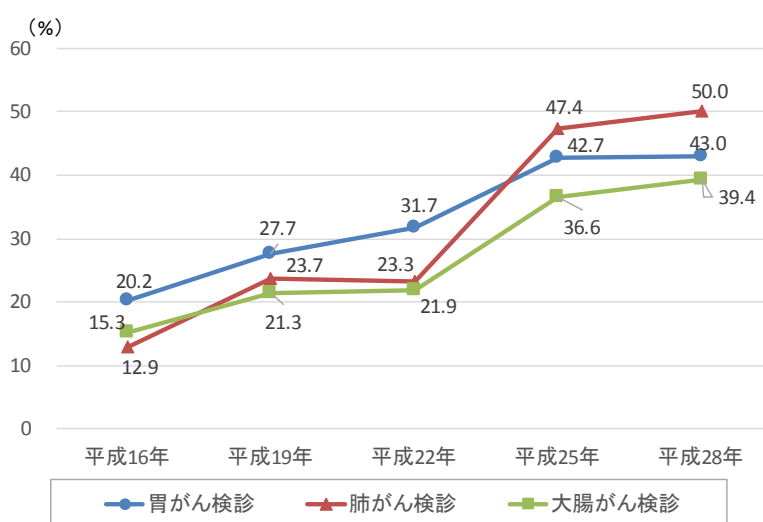
2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

(2) がん検診の受診状況

1) 就業状況別に見たがん検診受診率の推移

- 男女ともに仕事の有無にかかわらず、各がん検診について、平成16年から受診率が高まっている。
- 男性の正規の職員は平成28年に「肺がん」の受診率が5割となった。
- 女性の正規の職員は平成28年に「肺がん」の受診率が44.3%、「子宮がん」が40.9%となった。

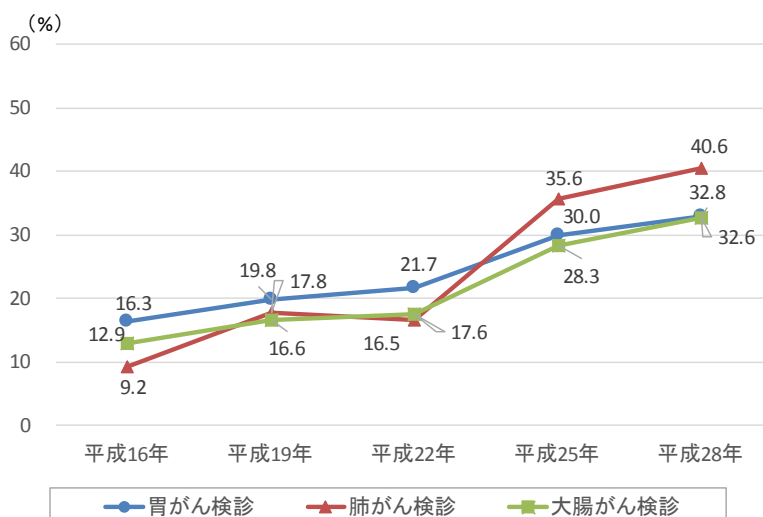
図 2.5. 正規の職員（男性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

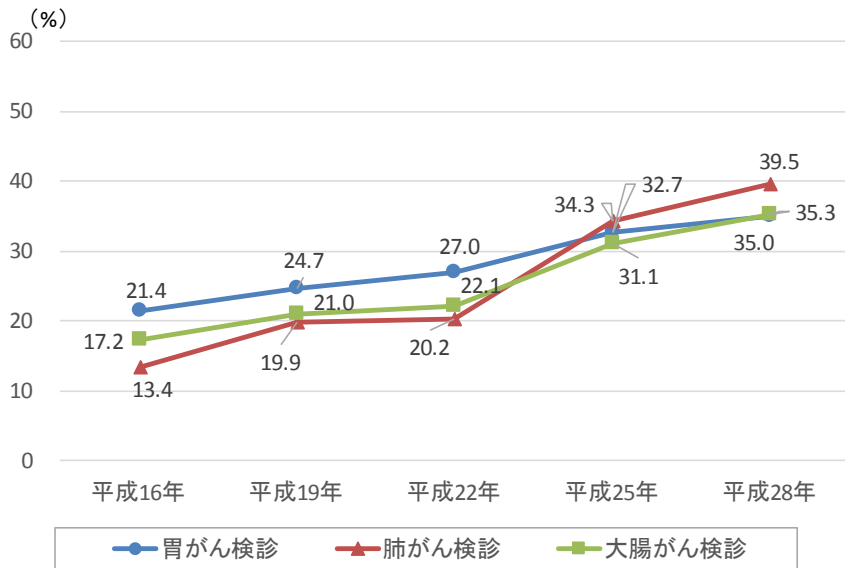
図 2.6. 非正規の職員（男性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

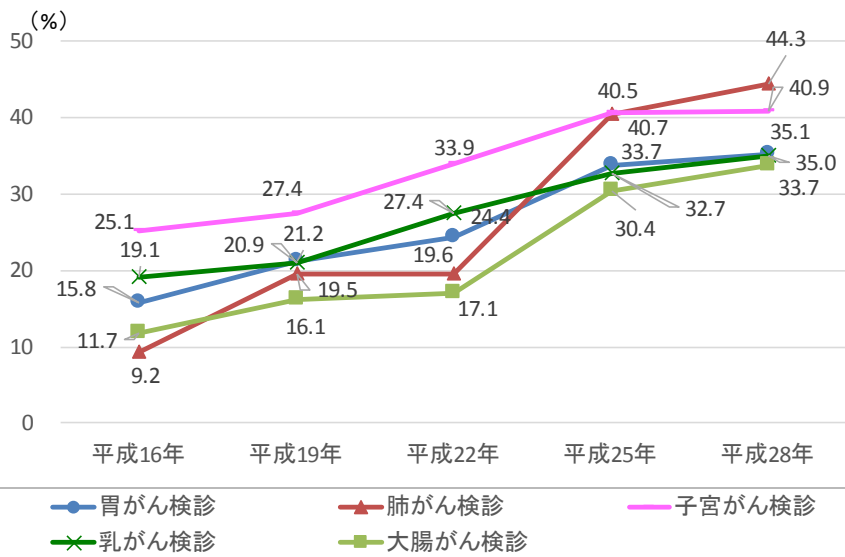
図 2.7. その他の就業形態（男性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

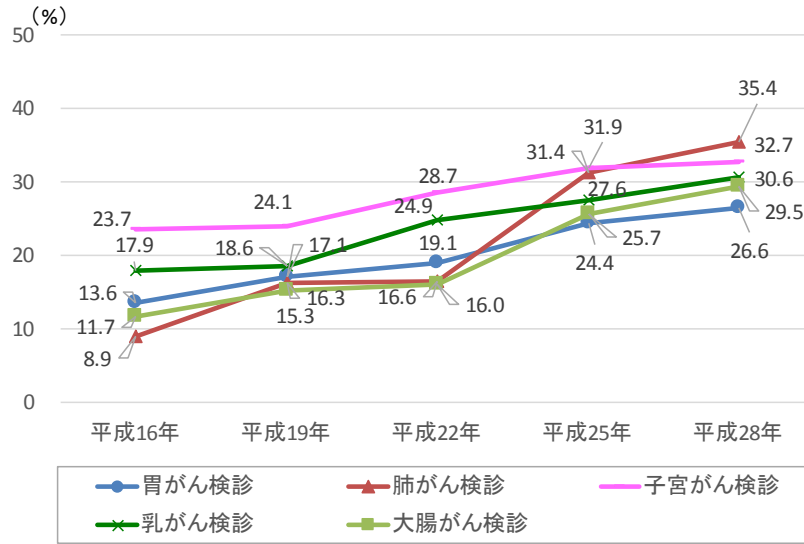
図 2.8. 正規の職員（女性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

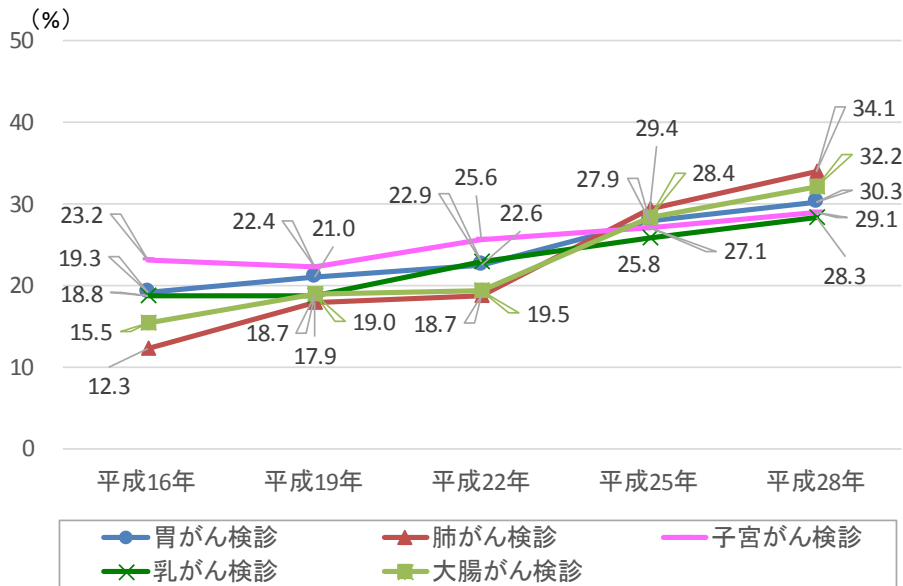
図 2.9. 非正規の職員（女性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

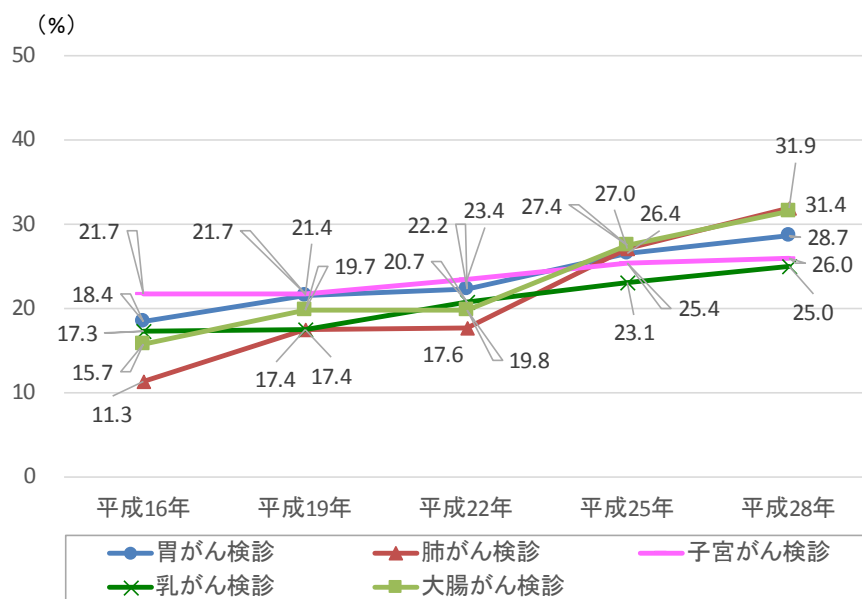
図 2.10. その他の就業形態（女性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20歳以上

2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 2.11. 仕事なしで家事を担う者（女性）のがん検診受診率の推移



(備考) 1.20 歳以上

2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

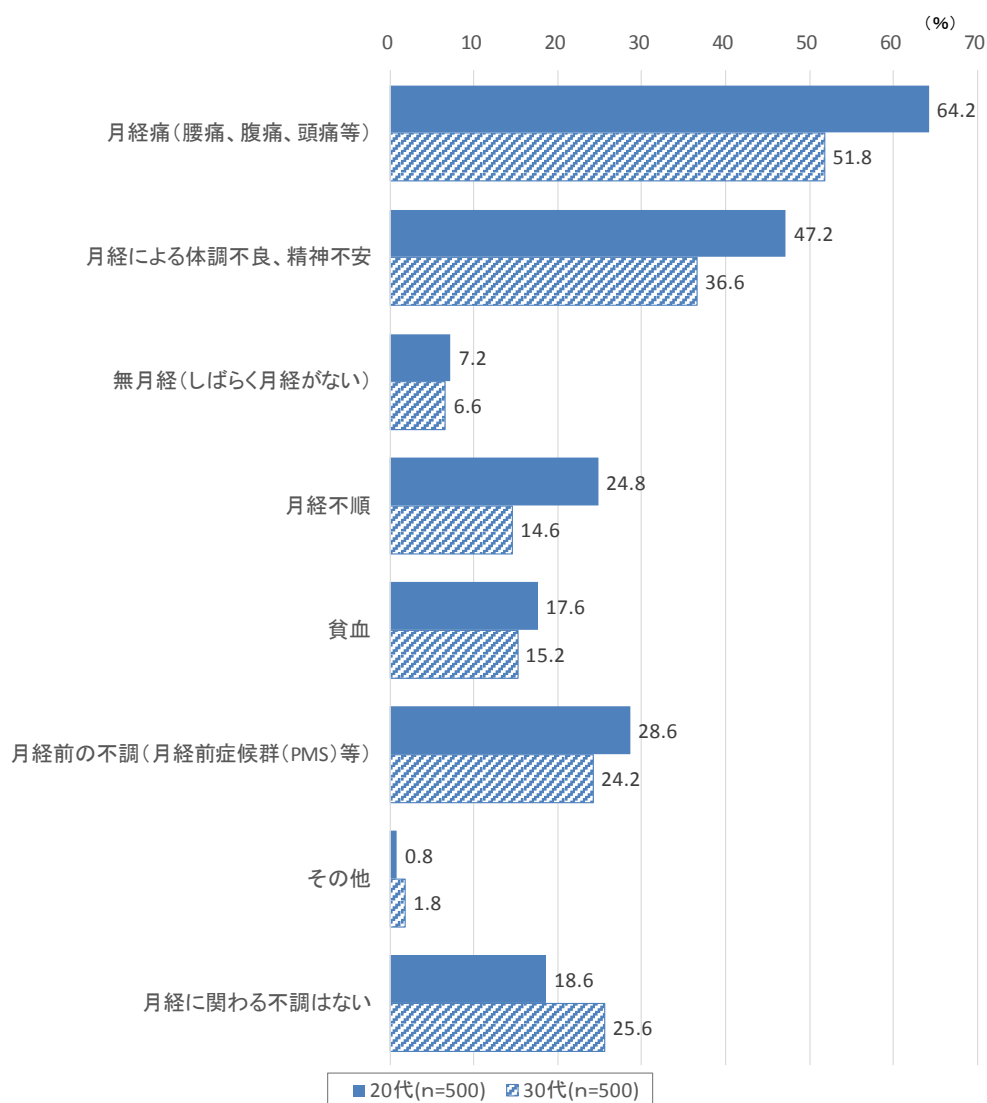
第3章 男女の健康意識に関する調査の結果

1 日ごろの不調に関する状況

(1) 月経に関わる不調の状況

- 女性のみで月経に関する不調を尋ねた結果を見ると、20～30代の7～8割が月経に関する何らかの不調を感じている。月経痛は、20代の64.2%、30代の51.8%抱えている。

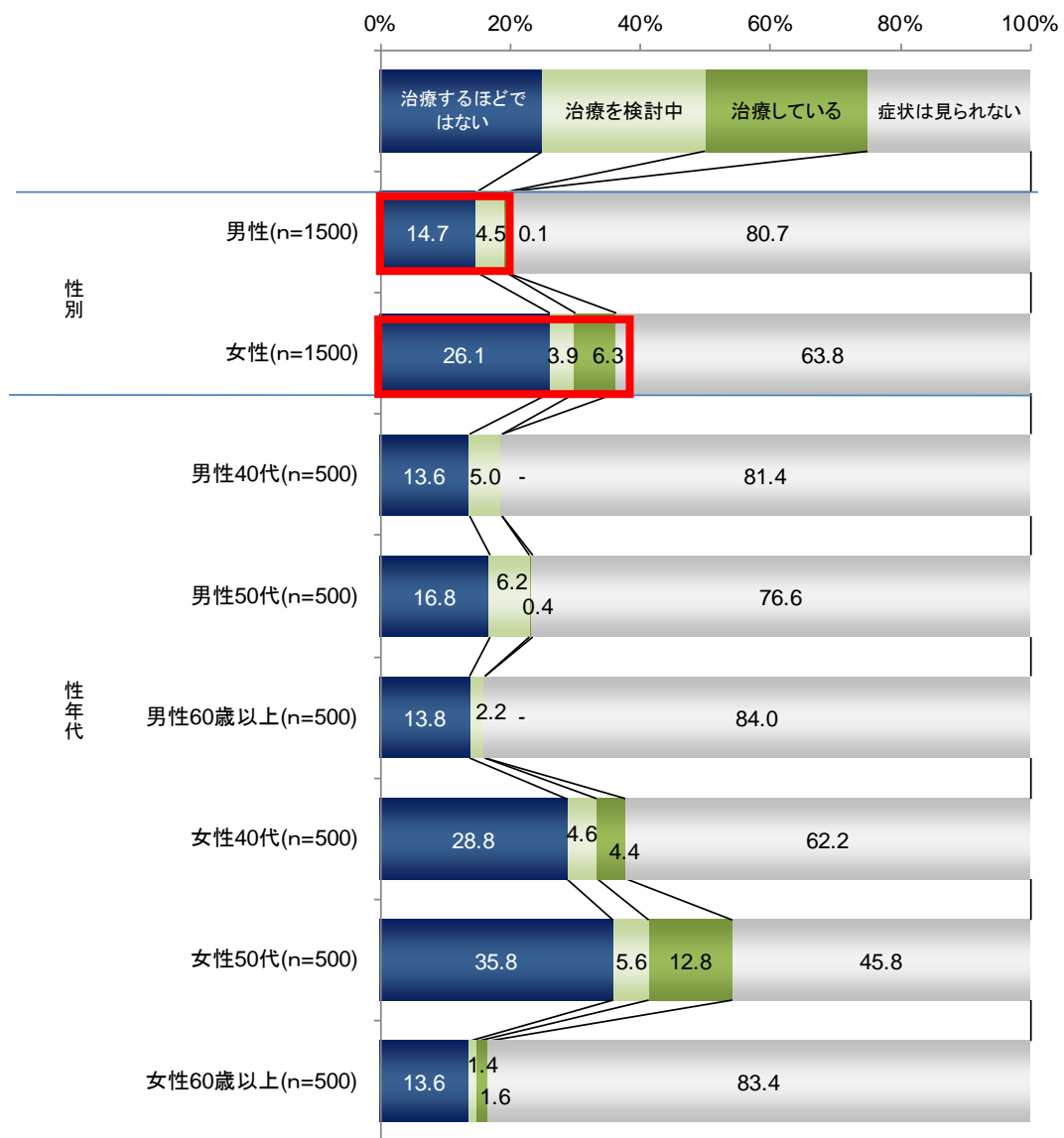
図3.1.月経に関わる不調の状況（女性のみ）



(1) 肩こり、ほてり、発汗等の更年期障害に関する症状の有無

- 40歳以上の男女を対象に更年期障害に関する症状の有無を尋ねた結果を見ると、女性の36.3%（うち、40代は37.8%、50代は54.2%）、男性の19.3%（うち、40代は18.6%、50代は23.4%）が何らかの更年期障害を抱える。
- 女性の26.1%、男性の14.7%は「症状が見られるが治療するほどではない（治療していない）」としているが、女性3.9%、男性の4.5%が治療を検討し、女性の6.3%、男性の0.1%が実際に治療を行っている。

図3.2.更年期障害に関わる症状の有無（性別・性年代）



2 仕事と治療の両立に関する状況

(1) 通院ありの者の傷病

- 通院ありと回答した者の傷病の状況を見ると、男性は「うつ病やその他のこころの病気が」46.6%で女性 26.8%である。「糖尿病」の女性は 13.6%に対して、男性は 38.4%と高い。
- 女性特有の傷病として、「子宮筋腫」が 14.4%、「子宮内膜症」が 10.9%、「月経困難症」が 7.3%である。

表3.1.通院ありの者の傷病（性別・性年代・就業形態）

(%)

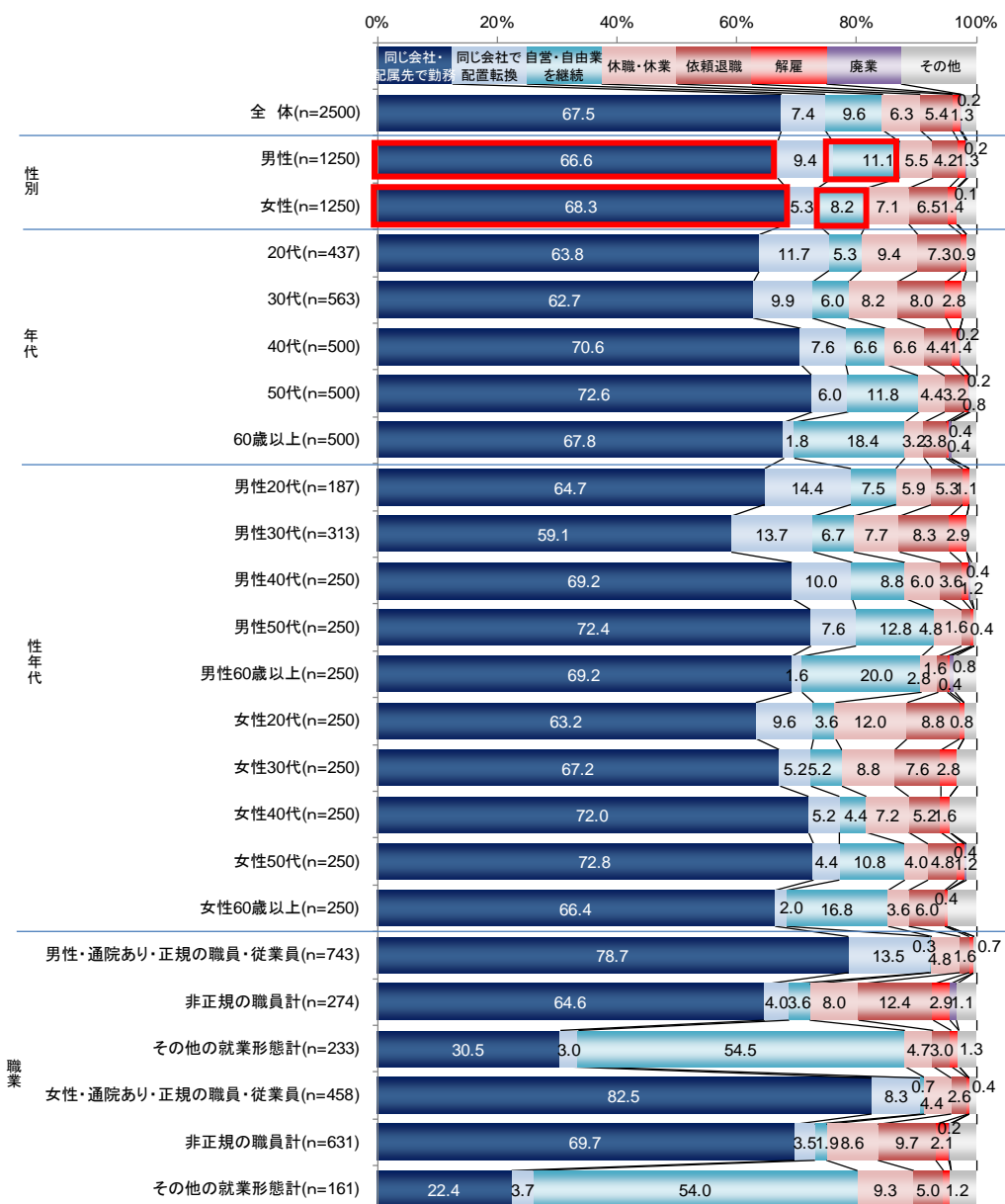
		うつ病やその他のこころの病気	糖尿病	悪性新生物(がん)	子宮筋腫	狭心症・心筋梗塞	子宮内膜症	関節リウマチ	更年期障害	骨粗しょう症	不妊症(妊娠を望みながら1年以上経たない、不妊症について受診したことがある等)	月経困難症(子宮筋腫や子宮内膜症で月経困難症、月経痛が強く病院にかかっている等)	パセドウ病、橋本病	脳卒中(脳出血、脳梗塞等)	卵巣嚢腫	性感染症(性器クラミジア感染、性器ヘルペスウイルス感染、淋病、梅毒等)	産前産後うつ病(産後約2週間以内)に起こるうつ病(産後約2週間以内)に起こるうつ病)	妊娠・産褥期の傷病(妊娠悪阻、妊娠浮腫、前置胎盤等)	妊娠・産褥期の傷病(妊娠悪阻、妊娠浮腫、前置胎盤等)
合計	通院あり(n=2500)	36.7	26.0	9.4	7.2	5.4	5.4	4.8	4.3	3.8	3.7	3.6	3.2	2.4	2.0	1.1	0.6	0.4	
性別	男性・通院あり(n=1250)	46.6	38.4	8.6	-	9.0	-	3.5	0.7	1.2	1.4	-	1.0	4.1	-	1.7	-	-	
	女性・通院あり(n=1250)	26.8	13.6	10.2	14.4	1.8	10.9	6.2	7.8	6.4	6.1	7.3	5.3	0.8	4.1	0.6	1.2	0.7	
性年代	20代・男性・通院あり(n=187)	57.2	13.4	12.8	-	11.2	-	8.6	3.2	5.9	4.3	-	3.2	9.6	-	8.0	-	-	
	30代・男性・通院あり(n=313)	74.4	17.6	4.2	-	1.3	-	3.2	0.3	-	1.9	-	1.3	1.9	-	1.9	-	-	
	40代・男性・通院あり(n=250)	60.4	37.2	3.2	-	3.2	-	3.2	0.8	0.4	0.8	-	0.8	3.6	-	-	-	-	
	50代・男性・通院あり(n=250)	31.2	57.2	8.0	-	14.0	-	0.4	0.8	0.4	0.8	-	-	2.8	-	-	-	-	
	60歳以上・男性・通院あり(n=250)	5.2	65.6	17.2	-	17.6	-	3.6	-	0.4	-	-	0.4	4.4	-	-	-	-	
	20代・女性・通院あり(n=250)	43.6	4.4	2.4	5.6	1.2	13.2	1.6	-	1.6	7.2	20.4	5.6	1.2	6.0	2.4	4.8	2.4	
	30代・女性・通院あり(n=250)	37.2	6.0	6.0	16.0	-	18.8	2.8	1.6	1.2	18.0	9.6	5.6	-	6.4	0.4	1.2	0.4	
	40代・女性・通院あり(n=250)	22.8	11.6	9.2	30.8	0.8	14.0	5.2	8.8	0.8	5.2	5.6	4.4	0.8	3.6	-	-	0.4	
	50代・女性・通院あり(n=250)	22.4	16.0	16.4	16.0	0.8	6.8	7.6	25.6	2.8	-	0.8	6.8	-	3.6	-	-	0.4	
	60歳以上・女性・通院あり(n=250)	8.0	30.0	17.2	3.6	6.4	1.6	13.6	3.2	25.6	-	-	4.0	2.0	0.8	-	-	-	
性・就業	男性・通院あり正規の職員・従業員(n=743)	49.4	36.3	8.7	-	7.7	-	4.0	0.9	1.6	1.5	-	1.2	3.6	-	2.6	-	-	
	非正規の職員計(n=274)	52.9	36.1	6.9	-	10.2	-	1.1	-	0.4	-	-	1.1	2.9	-	0.7	-	-	
	その他の就業形態(n=233)	30.0	47.6	10.3	-	11.6	-	4.7	0.9	0.9	2.6	-	0.4	6.9	-	-	-	-	
	女性・通院あり正規の職員・従業員(n=458)	23.6	9.8	9.4	19.7	1.1	14.8	6.1	7.4	2.2	6.6	10.7	5.0	0.9	6.1	1.1	2.0	0.9	
	非正規の職員計(n=631)	28.4	14.9	10.1	12.5	2.2	9.4	6.0	8.4	7.9	6.5	5.7	4.8	0.8	3.2	0.3	1.0	0.6	
	その他の就業形態(n=161)	29.8	19.3	13.0	6.8	2.5	5.6	6.8	6.8	12.4	3.1	3.7	8.1	0.6	1.9	-	-	0.6	

- (備考) 1.赤色のセルは全体より5ポイント以上青色のセルは全体より5ポイント以下を示す。
 2.子宮筋腫、子宮内膜症、月経困難症、卵巣嚢腫、妊娠産褥期の傷病、産後うつは女性のみ回答。
 3.「通院あり」の者は、その他の傷病以外のいずれかの傷病1つに罹患して通院している。

(2) 通院頻度の最も多い傷病罹患後の就業状況

- 疾病罹患直後から 1 年程度の状況について性別で見ると、男性の 77.7%、女性の 76.5%が罹患時と同じ会社・配属先で継続して勤務、もしくは自営業・自由業を継続している。

図3.3. 通院頻度の最も多い傷病罹患後の就業状況（性別・年代・性年代・就業形態）

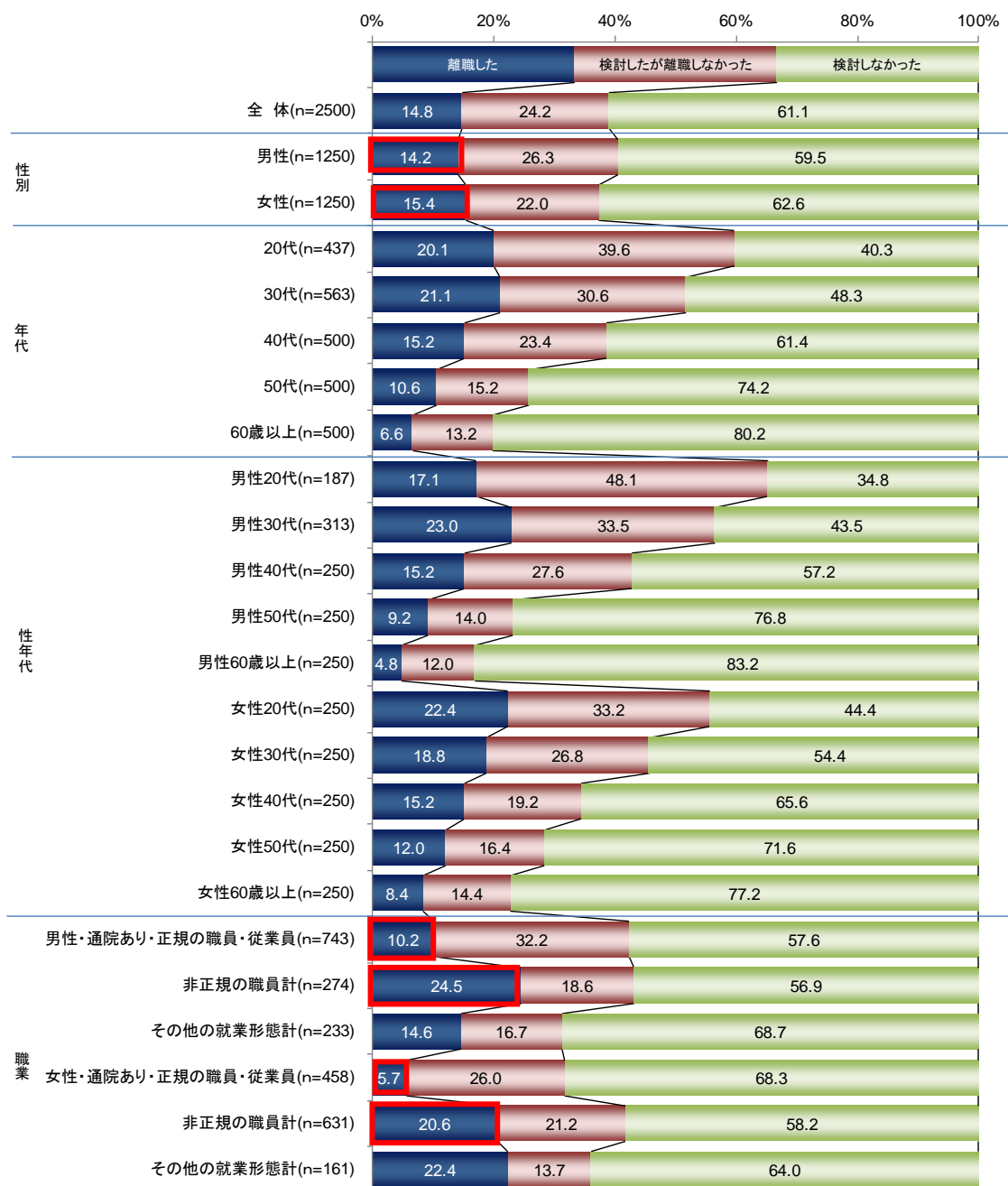


(備考) 通院ありのみの回答。

(3) 通院頻度の最も多い傷病の治療に際する離職検討の有無

- 疾病治療に際しての離職検討の状況を見ると、男性 14.2%、女性の 15.4%が離職している。検討したが離職しなかった者は、男性は 26.3%、女性は 22.0%である。男女ともに非正規の職員の方が離職した割合が高い。

図3.4. 通院頻度の最も多い傷病の治療に際する離職検討の有無（性別・年代・性年代・就業形態）



(備考) 通院ありのみの回答。

(4) 治療しながら働く際に利用している制度

- 治療しながら働く際に利用している社内制度の結果を見ると、男性の30.2%、女性20.1%が「治療目的の休暇・休業制度」を利用している。女性の51.6%が「利用できる制度がない」としている。正規の職員、非正規の職員に関わらず、女性の方が「利用できる制度がない」が高い。

表3.2.治療しながら働く際に利用している制度（性別・年代・性年代・就業形態）

(%)

	治療目的の休暇・休業制度	時間単位の有給休暇の取得	フレックスタイム制度	残業の禁止	慣らし出勤制度	所定労働時間を短縮する制度	在宅勤務制度	失効年次有給休暇の積立制度	時差出勤制度	その他	制度はあるが利用した事はない	利用できる制度がない
全体(n=2500)	25.1	13.7	9.0	6.1	4.6	4.4	4.1	3.8	3.8	1.8	11.2	44.6
性別												
男性(n=1250)	30.2	14.8	11.0	7.8	5.8	4.7	4.2	4.1	4.2	1.9	11.9	37.5
女性(n=1250)	20.1	12.6	7.0	4.4	3.4	4.2	3.9	3.4	3.5	1.6	10.5	51.6
年代												
20代(n=437)	36.8	16.9	8.9	9.2	6.4	8.0	8.0	7.3	5.5	0.2	9.4	32.3
30代(n=563)	29.7	15.8	12.1	9.9	8.5	6.4	3.7	4.1	3.9	2.1	9.9	40.7
40代(n=500)	24.4	14.6	9.2	5.4	4.4	3.4	3.2	3.2	4.6	1.2	9.6	46.4
50代(n=500)	23.8	13.0	7.6	4.2	3.0	2.2	2.2	2.6	2.6	2.4	13.0	44.6
60歳以上(n=500)	11.8	8.4	7.0	1.8	0.4	2.4	3.8	2.0	2.8	2.6	14.0	57.8
性年代												
男性20代(n=187)	44.9	20.3	10.7	12.8	5.9	11.2	8.6	9.6	5.3	-	5.9	21.9
男性30代(n=313)	32.9	15.3	12.5	11.5	10.5	5.8	3.8	4.2	4.5	2.9	8.9	37.1
男性40代(n=250)	30.4	16.0	11.6	6.8	5.2	3.2	3.2	1.6	4.8	1.6	10.0	38.4
男性50代(n=250)	31.2	14.0	10.8	6.0	5.2	2.4	2.4	3.6	4.0	2.4	14.0	34.4
男性60歳以上(n=250)	14.4	9.6	9.2	2.4	0.8	2.4	4.4	2.8	2.4	2.0	20.0	52.0
女性20代(n=250)	30.8	14.4	7.6	6.4	6.8	5.6	7.6	5.6	5.6	0.4	12.0	40.0
女性30代(n=250)	25.6	16.4	11.6	8.0	6.0	7.2	3.6	4.0	3.2	1.2	11.2	45.2
女性40代(n=250)	18.4	13.2	6.8	4.0	3.6	3.6	3.2	4.8	4.4	0.8	9.2	54.4
女性50代(n=250)	16.4	12.0	4.4	2.4	0.8	2.0	2.0	1.6	1.2	2.4	12.0	54.8
女性60歳以上(n=250)	9.2	7.2	4.8	1.2	-	2.4	3.2	1.2	3.2	3.2	8.0	63.6
性別・通院・就業												
男性・通院あり・正規の職員・従業員(n=743)	40.1	19.9	13.2	9.8	6.9	4.8	4.0	5.4	4.6	1.3	12.1	26.6
非正規の職員計(n=274)	21.5	9.1	6.9	6.6	5.1	6.9	4.0	3.6	4.4	3.3	13.9	45.6
その他の就業形態計(n=233)	8.6	5.2	9.0	3.0	3.0	1.7	5.2	0.4	2.6	2.1	9.0	62.7
女性・通院あり・正規の職員・従業員(n=458)	28.8	19.9	11.1	5.2	4.1	4.4	3.5	5.5	3.9	0.9	12.0	37.6
非正規の職員計(n=631)	16.0	9.5	4.8	4.1	3.0	4.4	2.7	2.5	3.0	1.9	10.1	59.0
その他の就業形態計(n=161)	11.2	4.3	4.3	3.1	3.1	2.5	9.9	1.2	4.3	2.5	7.5	62.7

(備考) 1.赤色のセルは全体より5ポイント以上青色のセルは全体より5ポイント以下を示す。

2.通院ありのみの回答。

(5) 治療と仕事の両立における課題

- 男女ともに「働き方を変えたり、休職することで収入が減少する」「時間単位の有給休暇や短時間勤務、治療目的の休暇・休業制度などの両立支援制度がない」「病気や治療について職場で打ち明けづらい雰囲気である」の順に高い。
- 「働き方を変えたり、休職することで収入が減少する」は女性で3割を超え、女性の非正規の職員で33.4%となっている。

表3.3. 通院ありの者の治療と仕事の両立における課題（性別・年代・性年代・就業形態）

(%)

		働き方を変えたり、収入が減少する	時間単位の有給休暇・休業制度がない	病気の治療について職場で打ち明けづらい雰囲気である	休業や短時間勤務により、人事評価が下がる	配置転換や仕事内容の変更などを申し出る仕組みがない	両立支援制度等について、会社に相談できない窓口がない	治療費を確保するために、収入が減少する	産業界や産業看護師などが相談に乗ってくれない	通院が体力的に困難である	格や希望しない配置転換などの人事上の不利を受ける	主たる医師や担当看護師に仕事を相談しにくい	その他	課題だと感じることが特にない	
全体(n=2500)		27.6	21.9	20.1	13.8	13.5	12.2	11.7	10.6	9.2	8.6	8.0	5.4	1.3	39.8
性別	男性(n=1250)	24.2	20.7	18.4	15.0	14.1	11.8	11.9	9.3	8.4	7.7	8.5	5.0	1.1	41.4
	女性(n=1250)	31.0	23.1	21.8	12.6	13.0	12.6	11.4	12.0	9.9	9.5	7.4	5.7	1.4	38.2
年代	20代(n=437)	35.7	33.6	30.4	17.6	19.7	18.5	21.3	11.9	13.0	14.4	11.0	5.0	0.7	19.5
	30代(n=563)	36.4	26.6	27.2	19.5	16.7	15.5	17.2	14.9	11.9	9.8	11.5	8.2	1.1	27.7
	40代(n=500)	31.0	21.2	21.8	15.4	15.6	10.2	10.0	12.2	10.6	10.4	8.0	5.2	1.2	38.2
	50代(n=500)	24.2	17.8	13.6	12.6	10.0	10.2	7.2	10.8	6.0	6.2	7.2	4.4	1.6	45.8
	60歳以上(n=500)	10.8	11.2	7.8	3.4	6.0	6.8	3.2	3.0	4.4	2.8	2.0	3.6	1.8	66.6
性年代	男性20代(n=437)	25.1	36.4	27.3	16.6	27.3	17.1	24.6	8.6	11.2	9.6	10.2	3.2	0.5	18.2
	男性30代(n=563)	35.1	22.7	26.5	20.8	16.9	14.4	17.6	12.8	9.9	9.3	10.9	8.0	0.6	28.1
	男性40代(n=500)	28.0	20.4	20.8	20.4	15.2	10.8	10.8	10.4	11.2	10.8	12.0	5.2	1.6	41.2
	男性50代(n=500)	24.0	18.8	12.0	14.0	9.6	10.8	6.8	10.4	5.6	6.0	8.0	4.4	1.2	46.0
	男性60歳以上(n=500)	6.4	8.8	5.6	2.0	4.0	6.4	1.6	3.2	4.4	2.8	1.2	3.2	1.6	70.8
	女性20代(n=500)	43.6	31.6	32.8	18.4	14.0	19.6	18.8	14.4	14.4	18.0	11.6	6.4	0.8	20.4
	女性30代(n=500)	38.0	31.6	28.0	18.0	16.4	16.8	16.8	17.6	14.4	10.4	12.4	8.4	1.6	27.2
	女性40代(n=500)	34.0	22.0	22.8	10.4	16.0	9.6	9.2	14.0	10.0	10.0	4.0	5.2	0.8	35.2
	女性50代(n=500)	24.4	16.8	15.2	11.2	10.4	9.6	7.6	11.2	6.4	6.4	6.4	4.4	2.0	45.6
女性60歳以上(n=500)	15.2	13.6	10.0	4.8	8.0	7.2	4.8	2.8	4.4	2.8	2.8	4.0	2.0	62.4	
性別・通院・有職無業	男性・通院あり・正規の職員・従業員(n=743)	25.3	24.5	21.0	19.4	16.4	13.3	15.9	10.8	10.2	6.9	10.6	5.1	1.2	34.7
	非正規の職員計(n=274)	24.8	22.6	18.2	11.7	13.1	13.1	6.6	8.0	6.6	7.3	6.2	5.8	1.1	45.3
	その他の就業形態計(n=233)	20.2	6.4	10.3	4.7	7.7	5.2	5.6	6.0	4.7	10.7	4.3	3.9	0.9	57.9
	女性・通院あり・正規の職員・従業員(n=458)	29.7	26.6	23.8	16.8	14.8	15.9	14.8	12.4	14.8	8.5	9.4	7.4	0.7	32.3
	非正規の職員計(n=631)	33.4	23.6	22.3	10.6	12.2	11.4	10.1	12.2	7.8	9.2	7.0	4.4	1.6	38.2
その他の就業形態計(n=161)	25.5	11.2	13.7	8.1	10.6	7.5	6.8	9.9	4.3	13.7	3.7	5.6	3.1	54.7	

(備考) 1.赤色のセルは全体より5ポイント以上青色のセルは全体より5ポイント以下を示す。

2.通院ありのみの回答。